

2006

NATIONAL UNIVERSITY CORPORATION

UNIVERSITY OF YAMANASHI

地域の中核 世界の人材



UNIVERSITY
OF
YAMANASHI

国立大学法人 山梨大学



学長挨拶

山梨大学は、「地域の中核 世界の人材」をキャッチフレーズに、諸学の融合による新たな知と技術の創生を図り、豊かな人間性を備えた国際人を養成して、地域社会・国際社会に貢献できる大学になることを目指しています。

この目標を達成するために、教育のより一層の充実を大きな課題として捉え、修学環境の整備を積極的に行うとともに、教育のあり方についても検討を進めています。

学部においては、自ら課題を探し出して、それを解決すべく努力する積極性・先見性・創造性に富んだ学生を養成するとともに、その学生が専門分野の枠を越えて、共通の知識や思考法を身に付け、人間としての生き方を深く考え、現実を理解する能力を身に付けるための教養教育の充実を実現する方針です。また、学部間の交流を深め、他学部での講義聴講の自由化、他学部教員の実習担当、他学部及び附属研究施設における卒業論文作成等が実行されています。

大学院においては、医学・工学・人文科学の融合を図った大学院医学工学総合研究部・教育部が設立され、新たな融合領域が設けられ、附属研究施設を含む分野の異なる複数の教員が研究指導を行う体制がとられており、学生の進路選択の自由度が増し、研究の質も向上しています。

この大学院組織を基盤に、医工融合の新たな研究領域が育ち、その成果が出つつあり、横断的・総合的研究が活発化し、さらに各専門分野においても数多くの優れた先端的研究が行われています。

特に、地球環境の改善を目指す燃料電池開発やバイオマス利用を含むプロジェクト、水資源に関する研究、様々な疾患の病態・治療に関する分子生物学的・免疫学的研究及び臨床的研究等が盛んに行われ、数多くの業績を挙げています。

これらの研究は、地方自治体や企業との連携のもとに進められているものも多く、本学の重要な機能の一つとして位置付けられている地域貢献が着々と進められています。

山梨県や岡谷市、東京エレクトロン(株)や山梨県ワイン酒造組合との協定による事業展開のほか、多方面での研究・開発事業を展開していく予定になっています。

このように大学の人的・知的資源を活用して地域社会での貢献を実現していますが、さらに前述の研究を通じ、国際社会への貢献も果たしています。

それだけでなく、外国人学生や研究者を積極的に受け入れることによる国際貢献・国際交流も大学の重要な使命であると考え、学生や研究者の交流を深めるため、外国の大学との交流協定を積極的に結んでいます。

国立大学法人山梨大学
学長 貫井 英明

山梨大学2006 プロジェクト KOHSHU[甲州]

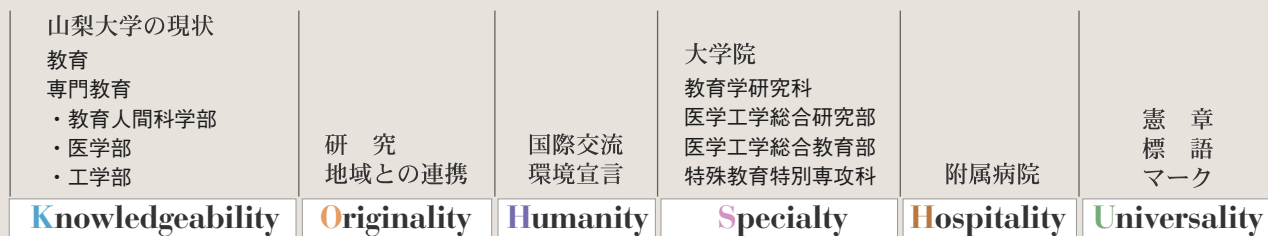
「地域の中核 世界の人材」を掲げる山梨大学では、2006年プロジェクト「甲州 KOHSHU」を宣言しました。「甲州 KOHSHU」の名は6つの核となる言葉の頭文字から命名。
(Knowledgeability・Originality・Humanity・Specialty・Hospitality・Universality)
新たな時代に向けて山梨大学が目指すべき志を、いにしえからの呼び名「甲州」にこめました。2世紀以上も受け継いできた大学の歴史と伝統…
山梨大学は知と技術の創造を図り、新たなプロジェクトのもと進化しつづけます。

- Knowledgeability** 知の中核となる教育・研究
- Originality** 独創的な研究
- Humanity** 人類愛に基づいた教育・研究
- Specialty** 専門性を重んじた教育・研究
- Hospitality** 人間性豊かな教育・研究
- Universality** 世界で通用する教育・研究

CONTENTS UNIVERSITY OF YAMANASHI

学長挨拶	1
プロジェクト[甲州]	2
Universality	3
Knowledgeability	5
Specialty	7
Originality	8
Hospitality	12
Humanity	13
施設案内	14
キャンパスマップ	17

Organization chart



山梨大学 2006
KOHSHU

施設

大学附属施設	学内共同教育研究施設	教育人間科学部附属施設	その他の施設	工学部附属施設
附属図書館	クリーンエネルギー研究センター 地域共同開発研究センター 機器分析センター 総合分析実験センター 総合情報処理センター 留学生センター 大学教育研究開発センター 保健管理センター	教育実践総合センター 小学校 中学校 養護学校 幼稚園	自然教育園 水晶展示室 附属図書館常設展示室 アイントープ実験室 RI実験施設	ワイン科学研究センター クリスタル科学研究センター ものづくり教育実践センター

山梨大学2006 プロジェクト

KOHSHU

Universality

世界で通用する教育・研究

■ 山梨大学憲章

山梨大学は、個人の尊厳を重んじ、真理の追究と学問の自由を大切に、多様な文化や価値観を積極的に受け入れます。

また、社会の要求に応えつつ、広い知識と深い専門性を追求し、地域の中核となり、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人材を養成する場となることを表明します。

この憲章に基づいて、山梨大学の役員・職員・学生は、志を同じくするすべての人々と協力し、以下の目標の達成を目指します。

未来世代にも配慮した教育研究

山梨大学は、現代世代だけでなく、未来世代の福祉と環境にも配慮した視点に基づいて、教育研究を行います。

諸学の融合の推進

山梨大学は、専門領域を超えて協力的な、諸学の柔軟な融合による新しい学問分野を創設し、さまざまな課題の解決に努めます。

世界的研究拠点の形成

山梨大学は、国際的視野を持って、問題の発見と解決に取り組み、世界の人材が集う研究拠点を構築し、学術及び科学技術の発展に貢献します。

国際社会で活躍する人材の養成

山梨大学は、市民としての倫理性と自律性を身に付け、専門性をもって、国際社会で活躍できる人材の養成に努めます。

地域から世界へ

山梨大学は、地域社会が抱える課題を取り上げ、その解決に地域と協同してあたり、得られた成果を世界に向けて発信します。

現実社会への還元

山梨大学は、教育研究の成果が社会に応用され、役立つよう、社会に積極的に還元することに努めます。

絶えざる改革

山梨大学は、自ら点検・評価を行うとともに、社会からの声を広く求め、絶えざる改革を推進します。



キャッチフレーズ

「地域の中核、世界の人材」

山梨大学は、豊かな教養と高い倫理性を持ち、広い教養と深い専門性を身に付けた学生教職員を育むことにより、知と技術における「地域の中核」となると同時に世界の平和と人類の福祉に貢献できる「世界の人材」を養成することを目標としています。

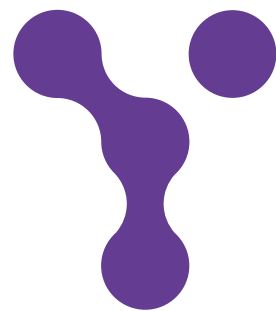
シンボルマーク

たわわに実った葡萄の房が輝く太陽の光に照らされているところを立体的にデザインしました。

繋がった円は、「学問の融合」と、本学が育んだ教育・研究の情報が地域さらには世界に向けて発信され、再び本学に戻ってくるという「循環的な相互関係」を、そして、独立した円は、輝く太陽と新しい山梨大学が希求する理念を表現しています。

葡萄は、古くから生命や知識、そして文化のシンボルとして知られています。

太陽の光があたった葡萄は、山梨大学がますます国際社会に貢献していく理想像も重ね合わせています。



UNIVERSITY
OF
YAMANASHI

Knowledgeability

知の中核となる教育・研究

■ 山梨大学の現状

教育人間科学部、医学部及び工学部の3学部から構成され、あわせて全国でも唯一の医学、工学の領域を融合した大学院(医学工学総合研究部・同教育部)を有しています。

また、21世紀COEプログラムにアジアモンスーン域流域総合水管理研究教育拠点と、経済活性化及び持続型社会形成のための研究開発プロジェクトとしてクリーンエネルギーの研究開発に関する次世代型燃料電池の研究・開発プロジェクトが認められています。

さらに、地域連携推進事業や大学知的財産本部整備事業により、本学の知的資源を地域活性化や文化の向上に活かしています。

教 育

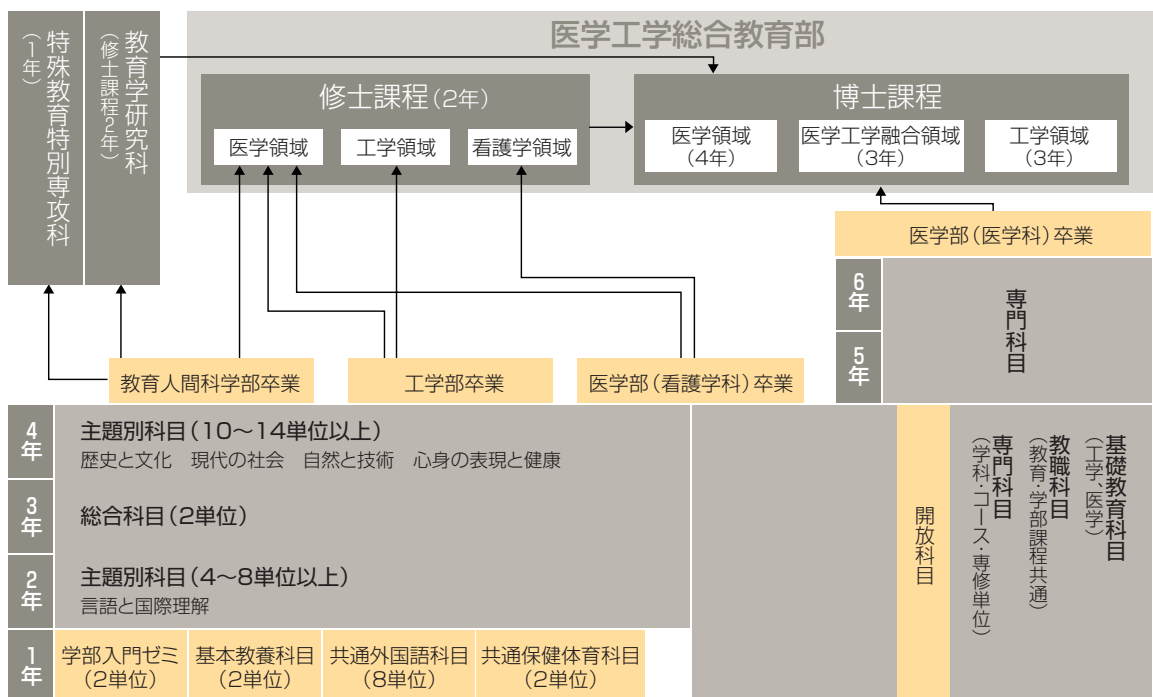
教養教育

目 的

自己実現を目指す人間形成の場としての役割を果たすため、専門に偏らない幅広い教養、視野を持つ豊かな人間性、独創的な創造力と優れた判断力を培う基礎となり、同時に専門知識の深化に役立つものとなることを目指しています。

目 標

自発的な学習・研究態度と専門に偏らない幅広い教養と豊かな人間性を育み、さらに他分野との関連性を考察し総合的かつ科学的な判断力を養います。





専門教育

教育人間科学部

理念・目標

教育人間科学部は、伝統ある教員養成の課程と、社会諸方面の今日的課題に取り組む人材を育成する3つの課程から成る複合的性格の学部です。

激しく変化する現代社会の中で、人間、そして社会に関する歴史的課題、あるいは新しい現実的な課題を実践的に担い、21世紀における豊かな人間生活の構築に寄与する人間科学を研究した教育する、これが私たちの学部が目指すものです。

総合的視野に立ってあらゆる問題を解決に導く力を備えた指導的役割の人材を育成するという目標のために、私たちは不断にカリキュラムと教育指導体制の改善に努めています。

課程・学科 ▶ 学校教育課程 生涯学習課程 国際共生社会課程 ソフトサイエンス課程

医学部

理念・目標

命の尊厳を教育の基本として、医の倫理を身につけ、深い人間愛と広い視野を持つ医師・看護専門職及び医学・看護学研究者の育成を目的とし、急速に発展する医学・看護学に対しては常に未来の動向に目を向けつつ、創造と実践により教育・研究の実を上げるとともに、地域医療の向上と充実に寄与、貢献することを使命としています。

課程・学科 ▶ 医学科 看護学科

工学部

理念・目標

学術の理論及びその応用を教授研究するとともに、広い教養と深い専門知識を持ち、豊かな想像力と優れた判断力を備えた人材を育成します。すなわち、基礎的な専門教養と広い一般教養を身に付け、地球的視点から問題を発見する能力と、その問題を解決する能力を備えたわが国将来の中核を担う工学系技術者の養成を行います。

今年度から「未来世代を思いやるテクノロジー教育」を目標に掲げました。

課程・学科 ▶ 機械システム工学科 電気電子システム工学科 コンピュータ・メディア工学科
土木環境工学科 応用化学科 生命工学科 循環システム工学科
クリーンエネルギー／ワイン科学特別教育プログラム

山梨大学2006 プロジェクト

KOHSHU

Specialty

専門性を重んじた教育・研究

大学院

教育学研究科

理念・目標

情報化社会の進展及び生涯学習社会の実現という社会的要請、教育に関わる学術諸分野の新たな研究成果の吸収という学問的要請とを背景として、教育は高度化と多様化の時代を迎えています。こうした現状を踏まえ、教育学研究科は、教育実践に関わる学術諸分野と教育科学の統合的・学術的な教育・研究を行うことにより、現代の複雑化する教育問題に対処できる高度な識見と実践力を有し、併せて地域文化の向上に寄与できる専門的資質を備えた教育及び研究者の養成を目指しています。

修士課程 学校教育 障害児教育 教科教育

医学工学総合教育部

理念・目標

医学工学総合教育部は、医学と工学という、異なる学問分野が協力して、21世紀の「知識基盤社会」の構築という時代的要請に応えることができる大学院組織です。新しい時代にふさわしい「知の再構築」を目指し、医学と工学という従来からの専門領域の充実に加え、医学工学融合領域という新しい領域での人材育成を行います。

博士課程 医学領域 医学工学融合領域 工学領域

修士課程 医学領域 工学領域 看護学領域

医学工学総合研究部

理念・目標

医学工学総合研究部では、研究基盤の強化発展を図るとともに、学際的、先端的な研究プロジェクトの構築や見直しを迅速に行い、社会の要請に敏感に対応した教育研究のあり方を目指しています。

また、医学と工学の融合という特色を活かし、既存の分野の枠や研究手法にとらわれない教育研究を推進し、新しい学際的領域で活躍できる人材の養成に努めています。

※教育部に大学院生が所属、研究部に教員が所属します。

専攻科

特殊教育特別専攻科

養護学校教諭免許状(Aコースは一種、Bコースは専修)の取得を目的として、障害児教育に関する専門教育を行います。

山梨大学2006 プロジェクト

KOHSHU

Originality

独創的な研究

研究

21世紀COEプログラム

日本の大学が世界のトップレベルの大学と肩を並べて、教育および研究水準を向上し世界をリードする創造的人材を育成していくために、競争的環境を醸成し、学問分野ごとに世界的な研究拠点の形成を重点的に支援するのが21世紀COEプログラムです。これにより、活力に富み、国際競争力のある世界最高水準の大学づくりが推進されます。

本学からは、「アジアモンスーン域流域総合水管理研究教育拠点」がこのプログラムに選定されました。

このテーマの目的は水量と水質に関する最先端の科学技術を、アジアモンスーン域の実際の流域に適用するための研究と教育を行うことにあります。地域での水問題の経験や水管理の努力を共有し、その地域固有の自然および社会的条件を考慮した解決方法を開発することを目指しています。中でも、アジアモンスーン域での専門家の育成と専門家の国際的ネットワーク作りに重点を置いています。



リーディングプロジェクト

「次世代型燃料電池」

日本経済を活性化する観点から、実用化を視野に入れた研究開発プロジェクトを大学、特殊法人・独立行政法人及び企業等が一体的に推進し、両者のポテンシャルを最大限に活用して行おうとするものです。

このプロジェクトで、次世代型燃料電池の研究・開発の国内拠点として、本学クリーンエネルギー研究センターが採択されました。本学は、この分野の研究及び人材育成拠点の役割を担い、革新的材料の開発を通して高性能・低コストの燃料電池を実現し、省エネルギーや地球環境の保全と社会経済の活性化に貢献したいと考えています。

戦略的創造研究推進事業費

「ナノ光電子機能の創世と局所光シミュレーション」

戦略的創造研究推進事業とは、国の科学技術政策や社会的・経済的ニーズを踏まえ、国が設定した社会的インパクトの大きい目標（戦略目標）のもと独立行政法人科学技術振興機構が定めた推進すべき研究領域の戦略目標を目指し基礎研究を行うものです。

本学からは「ナノ光電子機能の創世と局所光シミュレーション」がこの事業に採択されました。このテーマの目標は、ナノ素子の信号処理をナノメータ領域の局所光による励起伝達で機能し、スピンチェーン構造で制御する素子（励起伝達型ナノ光デバイス）を世界に先駆けて開発するものです。

共同研究

共同研究制度は、民間機関等の研究者と本学の教員とが、共通の課題について共同して研究を行う制度です。民間機関等が本学に研究者（民間等共同研究員）を派遣し、本学において研究を行う「派遣型」と、民間機関等の研究者（共同研究員）と本学の教員とが、それぞれの施設で分担して研究を行う「分担型」があります。

平成16年度の共同研究は91件でした。

受託研究

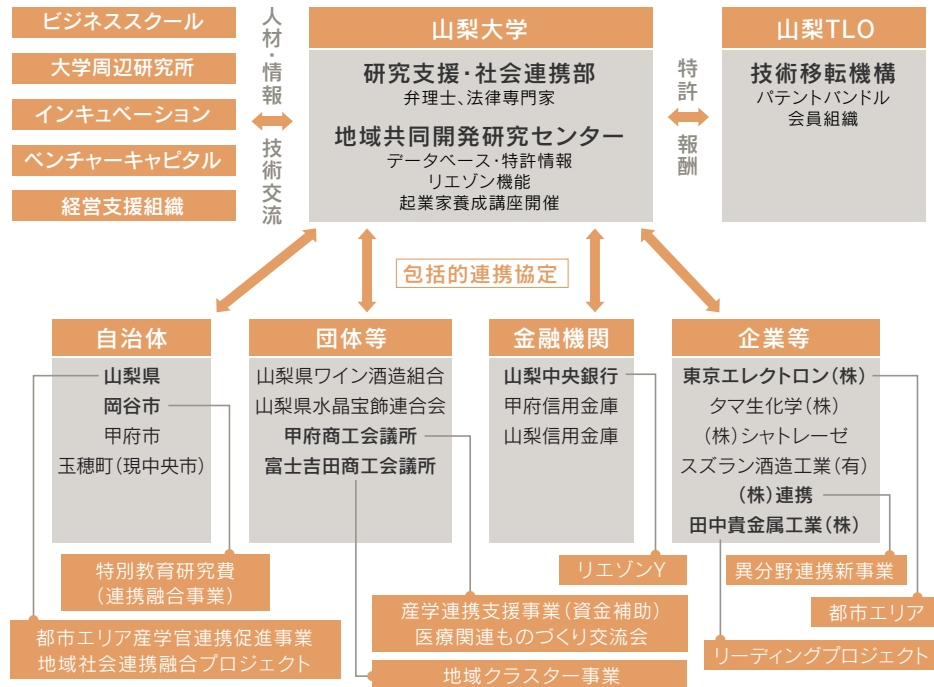
受託研究制度は、国および民間機関等から委託を受けて、本学の教員が公務として研究を行う制度です。これに要する経費は委託者の負担となります。

平成16年度の受託研究は41件でした。

山梨大学と地域との連携

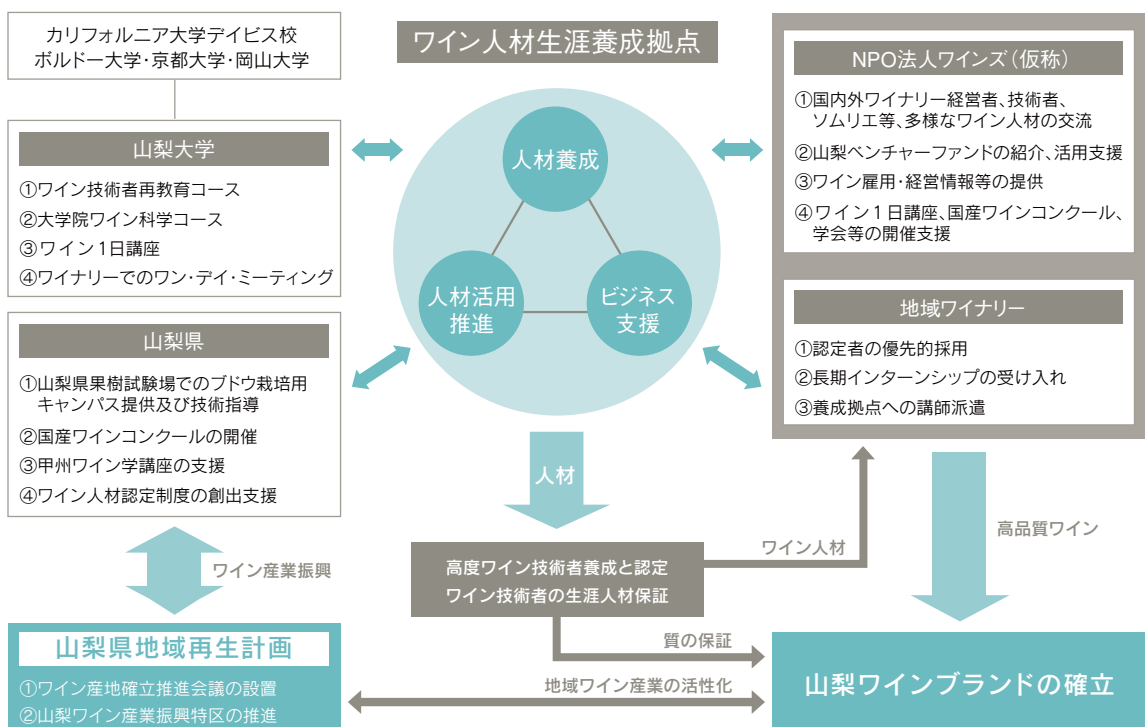
>>>

山梨大学で創出される知的財産を最大限に活用するため、地方自治体、公共団体及び金融機関を含む企業等と包括連携協定を締結することなどにより「知」を育てる地域のインフラを整備し、これをベースとして新たな共同研究や人材交流など、地域及び産学官の連携活動を積極的に推進しています。



ワイン人材生涯養成拠点

山梨県、地域ワイナリー、山梨大学のパートナーシップのもとに、ワイン人材を生涯にわたって養成する拠点事業を開始します。本拠点の人材養成機能、人材活用推進機能、ビジネス支援機能を通して、ワイン人材を養成し、その生涯にわたる支援を行います。この拠点事業により、地域ワイン産業のグローバルスタンダード化を実現し、ワイン産業の活性化を図ります。



山梨くになかエリア

分散型クリーンエネルギーシステムの構築



世界最先端の燃料電池研究を推進してきた山梨大学、長期総合計画で「環境日本一やまなし」の確立を推進する山梨県と、地域に集積する製造業などの民間企業が連携し、分散型クリーンエネルギーシステムの構築に向けた基礎技術を確立することにより、本地域の燃料電池関連技術産業の育成や新たな産業の創出を目指します。

●分散型クリーンエネルギーシステムの基礎技術の確立

本地域のポテンシャルを活かし、水、都市ガス、バイオマスという異なる資源から水素を生成、貯蔵、供給し、燃料電池により発電する分散型クリーンエネルギーシステムの基礎技術を確立します。

●次世代エネルギー技術・市場開発センター(仮称)の構築

本地域内に「環境・次世代エネルギー産業クラスター」を形成し、今後の研究開発や事業化を推進していくための基盤となる、次世代エネルギー技術・市場開発センター(仮称)の構築に向けた検討を進め、本事業終了後の設置を目指します。

共同研究事業

多様な資源からの水素製造に関する研究開発

水からの水素製造に関する、「A.高温水蒸気電解による水素製造の要素研究」、バイオマスからの水素製造に関する「B.バイオマスからの純水素生産システムの開発」と、都市ガスからの水素製造に関する、「C.改質装置の試作と評価」、及び「D.超小型純水素製造装置及びその利用システムの開発・実証研究」によって構成されています。

燃料電池の発電装置を開発するための研究開発

「E.高耐食性・高性能金属セパレータの開発及びPEFC(固体高分子型燃料電池)発電装置の試作・評価と実証実験」により、水素エネルギー社会の重要技術となる燃料電池に必須な低コスト、高耐久性、コンパクトな金属セパレータを開発するとともに、その成果を活用した新型燃料電池を作成し、市販燃料電池システムに搭載して評価試験を行う予定です。

研究交流事業

共同研究事業の成果を新たな山梨の産業にするためには、確立した基礎技術から実用化技術開発を経て製品化まで、いくつもの段階の研究開発や実証実験等を重ねる必要があります。そのため研究交流事業では、以下の取組を行うことにより、共同研究事業の成果を速やかに次期研究開発につなげていくことを目指しています。

共同研究事業

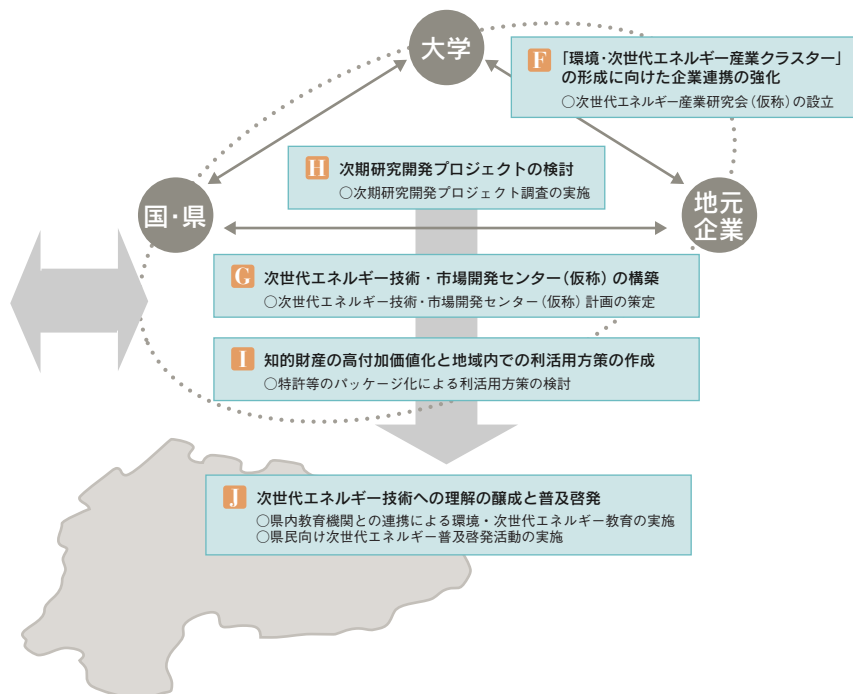
1 多様な資源からの水素製造に関する研究開発

- A 高温水蒸気電解による水素製造の要素研究
- B バイオマスからの純水素生産システムの開発
- C 改質装置の試作と評価
- D 超小型純水素製造装置及びその利用システムの開発・実証研究

2 燃料電池の発電装置を開発するための研究開発

- E 高耐食性・高性能金属セパレータの開発及びPEFC発電装置の試作・評価と実証実験

研究交流事業

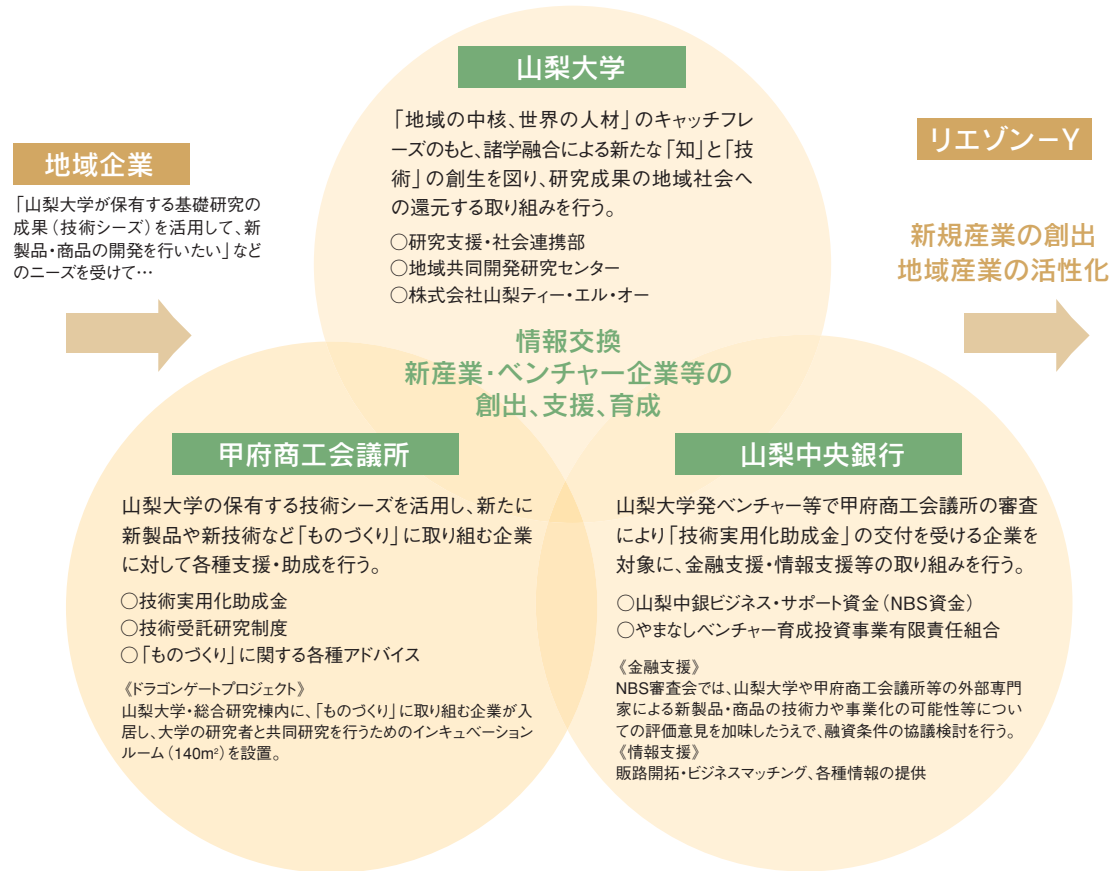


やまなし産学連携推進連絡会議

※リエゾンとは、フランス語で「つなぎ、橋渡し、絆」という意味です。

山梨大学・甲府商工会議所・山梨中央銀行

山梨大学と、甲府商工会議所・山梨中央銀行との間にそれぞれ締結された連携協定に基づく「三者」の有機的な連携により、産学連携事業の一層の推進を図ることを目的として発足した連絡会です。

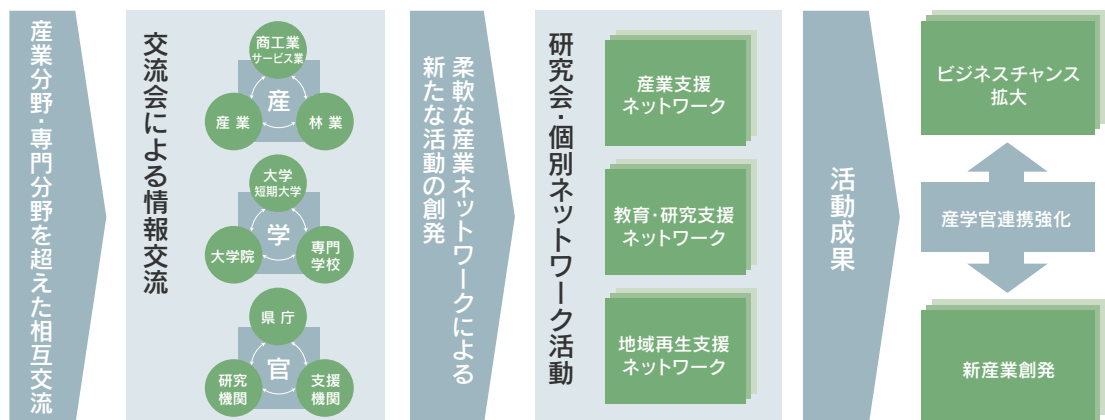


IIEN.Y (やまなし産業情報交流ネットワーク)

IIEN.Y(いいえん どっと わい)は、山梨県内の様々な産業分野で志を持って活動されている方々が、肩書きや専門分野、年齢を越えて、フラットにそしてオープンに交流する場を目指しています。こうした場から、「良い縁(いいえん)」が生まれ、縁に育まれたビジネスチャンスが生まれれば、と願っています。

これまでも様々な産学官連携の動きがありましたが、こうした動きを糧にしながら柔軟な産業ネットワークを作り、そこから様々な活動が創発されるよう、肩肘張らないけれど実り多い組織にしていきたいと考えています。

また、このネットワークは、参加者全員で自主的に運営することを前提としています。一人でも多くの皆様方に参加をいただき、山梨における産学官連携の輪を広げていきたいと考えています。



山梨大学2006 プロジェクト

KOHSU

Hospitality

人間性豊かな教育・研究



医学部附属病院

理念

『一人ひとりが満足できる病院』

医学部附属病院は、病院の使命を達成するため、医療を受ける人、医療に携わる人など、本院を利用する方一人ひとりが満足できる病院をつくります。

目標

共に考える医療

患者さんの人権を尊重し、患者さんを中心とした、共に考える人間性豊かな医療を目指します。

質の高い医療

特定機能病院として、高度の医療を実施するとともに、患者さんのQOL（クオリティ・オブ・ライフ）が向上できる医療を目指します。

快適な医療環境

患者さんに、最適な医療を提供できる医療環境の整備を目指します。

効率のよい医療

適切な人的配置とともに、医療情報管理システムを活用し、医療の効率化を目指します。

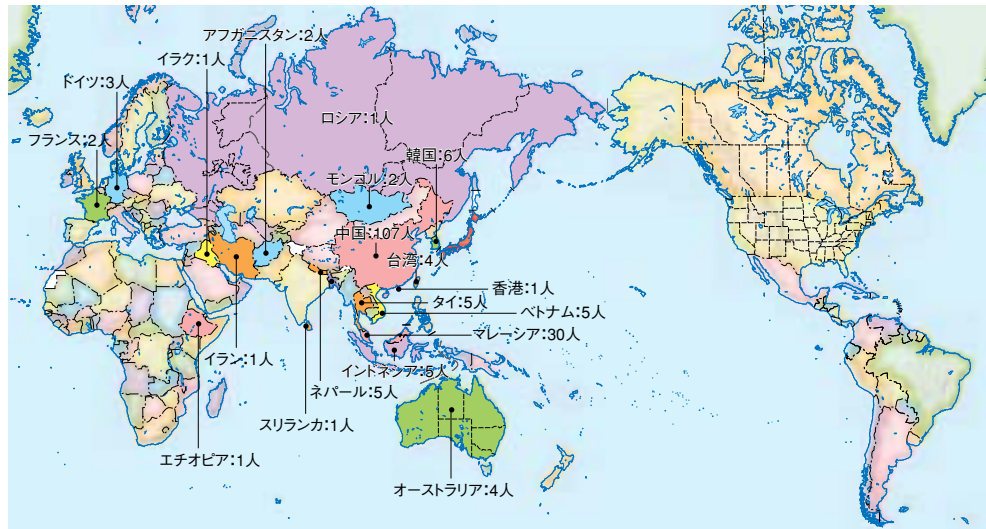
良い医療人の育成

人間の尊厳を守り、専門性を高めつつ国際性豊かな医療人を育成するため、充実した医療教育を目指します。

県内唯一の特定機能病院として、地域の中核的医療及び高度医療を担い、診療を通じて教育・研究を行う中で、患者さんの人権を尊重する医療人を養成する役割を担っています。
また、財団法人日本医療機能評価機構より認定を受けています。

Humanity

人類愛に基づいた教育・研究



国際交流

留学生交流

優れた留学生の受け入れ・派遣を積極的かつ持続的に進めることは、本学を持続的に発展させ、国際的に通用するリーダーを育成し、国際的に開かれた大学となるために不可欠です。

そのため、本学は14大学、9学部と交流協定を締結しています。

国際交流会館

教育・研究に従事する外国人留学生・外国人研究者の宿舎として、教育・研究に係る国際交流の促進に資することを目的として設置されました。

環境宣言

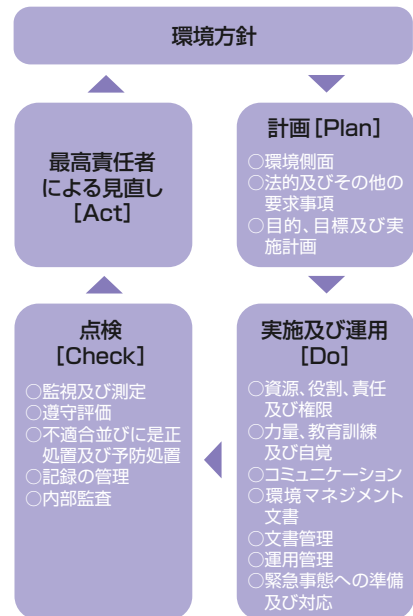
本学は、2003年4月7日、ISO14001を取得しました。

基本方針

本学は、基本理念を実現するために、職員及び学生など、本学に関わる全ての人の協力のもとに、それぞれの立場で「個人として」、「組織として」、自発的・積極的に環境活動に取り組みます。

地球環境の保全・改善活動を推進するために、教育及び学術研究活動を通じて循環型社会を担う21世紀に必要な人材を育成するとともに、教育啓発活動を積極的に展開します。

1. 環境目的及び目標を設定し、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
2. 循環型社会の実現を目指し、廃棄物の減量化、再利用、リサイクルなどにより、省資源・省エネルギーに取り組み、環境維持・改善と汚染予防につとめます。
3. 適用される環境関連の法規、規制、協定、自主基準などを遵守します。
4. 山梨県における環境活動に積極的に参画し、地域環境の保全・改善活動を支援します。
5. この環境宣言は文書化し、大学ホームページなどを通じて、職員・学生など、本学に関わる全ての人々に周知するとともに、地域社会へも公開し、また、環境活動への取り組みを公表します。



大学附属施設

■ 附属図書館

甲府キャンパスに本館、医学部キャンパスに医学分館があり、学習や教育、研究に必要な資料を約57万冊備えています。図書や雑誌だけでなく、ビデオやDVDのほか、IT時代に対応した電子ジャーナルやデータベースの導入に力を注ぎ、教育及び研究への支援を積極的に行っています。

また、地域社会の知的情報基盤としての役割を果たすことを目的として、調査、研究のために図書館を必要とする地域の方々にも利用を開放し、資料の閲覧、貸出、複写などのサービスを提供すると共に、山梨県内の大学図書館、公共図書館等の蔵書を一度に調べることができる横断検索システムの提供も行っています。

本館には、隣接して子ども図書室も開設され、大学と地域との共生に向けた活動を行っています。

学内共同教育研究施設

■ クリーンエネルギー研究センター

エネルギー及び地球環境問題の解決に貢献するクリーンエネルギーに関する研究を推進する目的で設置されました。

現在は、日本を代表するクリーンエネルギー研究の拠点として国家プロジェクトを推進し、学内外の研究組織、企業とも積極的に協力しながら最先端の研究活動を行っています。

また、学部及び大学院生への教育・研究指導並びに平成19年度からリーダー的人材育成を目的に、学部から大学院まで学べるクリーンエネルギー特別教育プログラムに参画しています。

■ 地域共同開発研究センター

大学と産業界との研究協力を推進するために設置されました。大学と地域社会が相互に発展することを目的とし、科学技術の振興、経済社会の発展、教育・文化の向上などの面において、地域社会から大学への窓口となるとともに、大学の地域社会への貢献をサポートしています。

■ 機器分析センター

電子顕微鏡、電子分光、EPMA、X線回折、質量分析、元素分析、NMR、蛍光X線、ICP、赤外分光、ラマン、DNAシーケンシング、三次元座標測定、万能試験機など、様々な精密分析計測が可能な20種以上の機器と関連機器を備え、共同利用に提供しています。

■ 総合分析実験センター

旋盤からリアルタイムPCRまで、研究に必要な機器を誰でもいつでも使えるようにサポートする機能解析分野、ルールと倫理に基づいた適切な動物実験環境を提供する資源開発分野、数学を駆使して最適な実験計画立案や統計解析を支える生命情報分野の3つの柱で、大学全体の教育・研究活動を支えます。

■ 総合情報処理センター

情報処理教育に利用する500台近くのコンピュータ端末や、全教職員・学生が教育・研究のため利用する各種サーバ群、キャンパス情報システム(CIS)、WWW、電子メール等の環境を提供しています。また、通常の情報処理教室の他に、24時間オープン端末を設置・運用しています。

更に、各種のe-learningサーバ群、外部ネットワークとの接続、学内基幹ネットワーク等の維持管理・運用を行っています。

■ 留学生センター

本学の留学生の勉学及び研究生活がみどり多きものになるように指導と支援をしていくために設置されました。

具体的には、次のような指導・支援を行っています。

- ①学部の留学生に対する日本語と日本語事情の教育
- ②修学及び生活上の指導と相談及び文化交流
- ③国費留学生に対する学部及び大学院の入学準備教育
- ④研究生及び研究者を主な対象とした日本語補講

■ 大学教育研究開発センター

本学における大学教育の質を確保し、教員の教育力の向上を図るため、大学教育に関する研究・開発を行うとともに、教養教育の実施を支援する目的で設置されました。

全学共通教育部門、教育活動企画・評価部門、教育力向上開発部門の3部門で構成されています。

■ 保健管理センター

学生及び教職員の健康保持・増進施設です。

医師・臨床心理士等の資格を持つ教員を配置し、様々な相談に応じています。

教育人間科学部附属施設

■ 教育実践総合センター

学部の理念を踏まえつつ、より教育の実践に重点を置いて設立された施設です。

具体的には、教員養成・教員研修の段階におけるカリキュラム開発、情報通信技術を活用した教育方法の研究のほか、実際の教育の現場における諸問題の研究や現職教員対象の教育相談などを行っています。

■ 小学校

教育人間科学部との密接な連携のもとに理論及び実際に関する研究・教育を行います。

また、教師を志す学生のために観察・参加・実習を指導し、高い教職的教養を身につけた教師の養成に努めています。

さらに、研究成果を広く公開し、公立学校等の研究や現職教育に協力して、小学校教育の進展を図っています。

■ 中学校

教育人間科学部の教育研究計画との密接な連携のもとに、中学校教育の理論及び実際に関する研究並びにその実験・実証に寄与します。

また、学部の教育実習計画に基づき、教育実習生の観察・実習の実施及び指導に当たります。

さらに、本校における教育研究の成果を広く公開し、公立学校の研究や現職教育に協力して県下の中学校教育の推進に寄与しています。

■ 養護学校

教育人間科学部との密接な連携のもとに、知的障害児教育の理論と実践についての研究・教育を行います。

また、教育実習・介護等体験実習の計画に基づき、学生の教育実地研究、観察・実習等の実施と指導を行います。

さらに、特別支援教育におけるセンター校として、毎年2月に公開研究会を実施するなど、教育実践や研究、教育相談活動を通して地域の特別支援教育・現職教育の推進に寄与しています。

■ 幼稚園

教育人間科学部との密接な連携のもとに、幼児教育の実証的研究を進めます。

また、学部学生の教育研究、教育実習の指導を行います。

さらに、幼児教育研究会の開催や研究会への参加を通じて、幼稚園教育の発展に努めています。

工学部附属施設

■ ワイン科学研究センター

ワインを専門に研究するわが国唯一の研究機関です。山梨県や日本国内のワイン産業の発展に寄与するという目的に加えて、現在は世界的な視野に立ち、先端的な細胞工学や遺伝子工学技術を駆使した基盤研究から、最新のブドウ栽培並びにワイン醸造の実用研究までを包括する研究センターとなっています。

また、学部及び大学院学生の教育・研究指導並びに平成19年度からリーダー的人材育成を目的に、学部から大学院まで学べるワイン科学特別教育プログラムに参画しています。さらに、平成18年度より、ワイン人材生涯養成拠点を開始します。

■ クリスタル科学研究センター

原子配列制御や集合組織制御によって新しい機能を持つ結晶の育成に関する研究、また、その応用に関する研究を行っています。新機能無機化合物、酸化物結晶、高温超伝導酸化物結晶、半導体超構造を有する結晶などが研究の対象です。

教育に関しては、卒業論文や大学院生の研究・教育指導を行っています。

■ ものづくり教育実践センター

工学系における『ものづくり教育の重要性』が一段と重みを増している状況に鑑み、『ものづくりの創造的かつ実践的教育の拠点』として発足しました。

センターでは、地場産業である伝統工芸を取り入れた実習、機械工作実習、研究用機器の設計・製作に関する全面的支援を行っています。さらに受託加工の相談及び学外者に対する教育訓練（公開講座、放送大学授業支援等）も積極的にしており、地域に開かれたセンターを目指しています。

その他の施設

■ 自然教育園

自然環境下における教育・研究活動の実践及びその質的向上を図ることを目的とします。常に各種の野菜や植物が栽培され、様々な体験の場となっています。

■ 赤レンガ館

明治42年(1909年)4月、歩兵四十九連隊(通称甲府連隊)の食糧庫として使用が開始されました。第2次大戦後、他の建物が取り壊された後も教育人間科学部附属中学校舎の一部として使われ、平成14年(2002年)、当時の面影を残したまま改修されました。

平成18年度に登録有形文化財に登録予定です。



■ 水晶展示室

大正8年に葉種業を営んでいた百瀬康吉氏より寄贈された水晶46点を中心に展示しています。長さ97cm、最大幅径30cm、重さ77.5kgの「大水晶」や、水晶の形成時に包有された鉱物が藻のように見える「草入り水晶」ほか、珍しい水晶が多数展示されています。



■ 附属図書館常設展示室

明治・大正・昭和期の日本文学を彩る様々な作家の初版本や文芸雑誌を展示しています。中でも雑誌「明星」と、そこに集まった若い詩人たち、与謝野晶子、与謝野鉄幹、島崎藤村、上田敏、石川啄木などの著作を、初版本を中心に展示しています。



■ アイソトープ実験室

甲府キャンパスにおける実験用放射性同位元素を管理・保管し、同物質を用いる実験・研究をサポートすることを目的とします。

■ RI実験施設

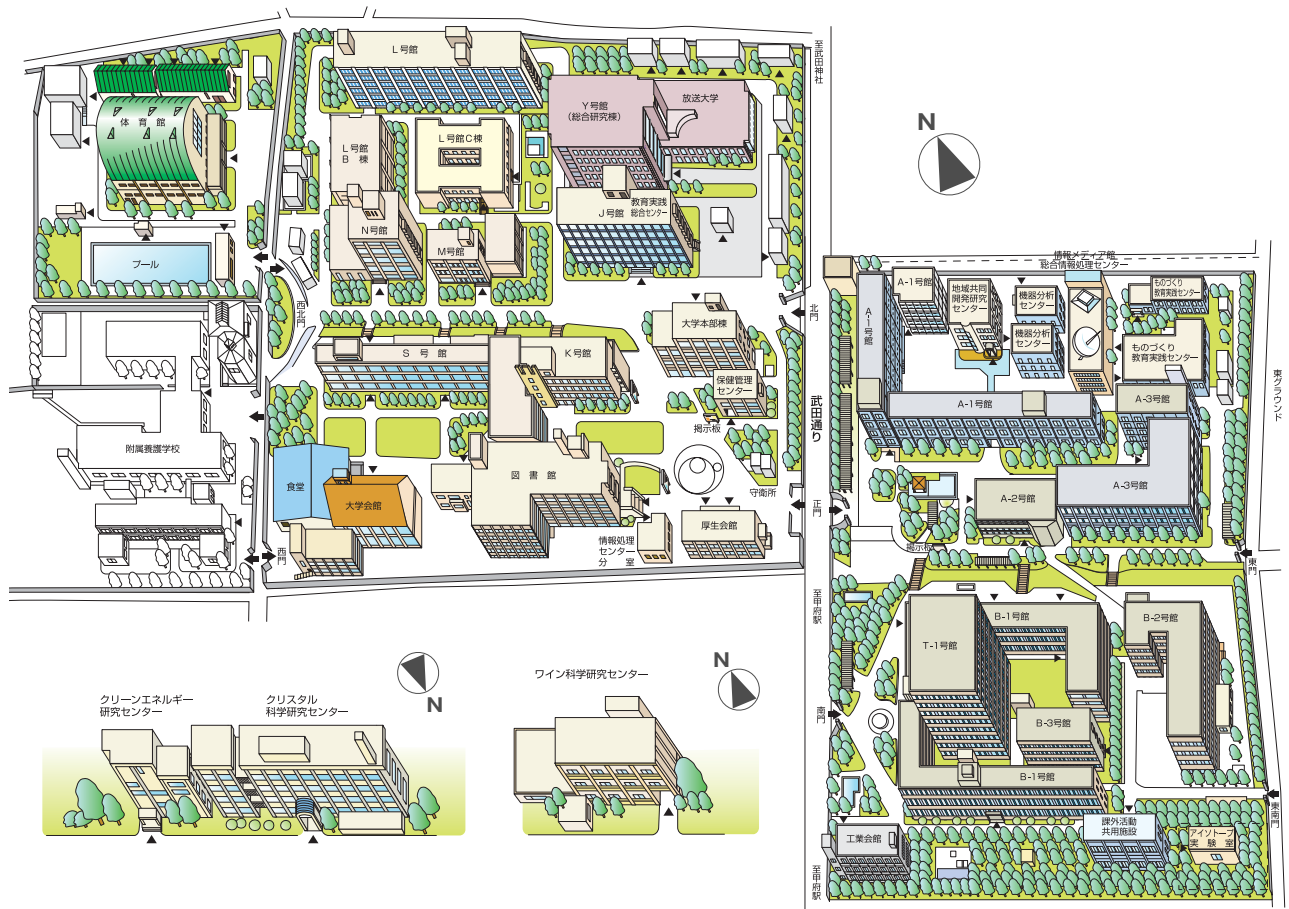
医学部キャンパスにおける、医学、生物学の研究のためのラジオアイソトープ(RI)を有効かつ安全に使用するための研究実験施設です。

施設の中では30核種のアイソトープが使用でき、遺伝子レベルから動物を使用した実験まで行われています。

キャンパスマップ

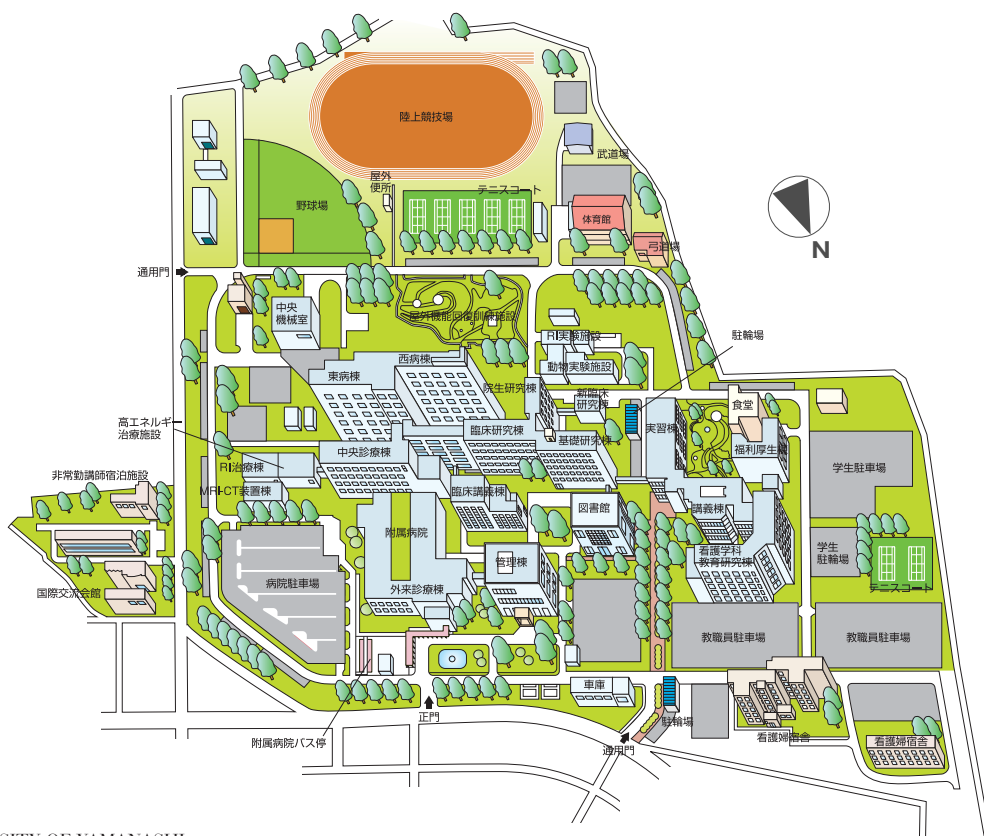
甲府キャンパス

KOFU CAMPUS



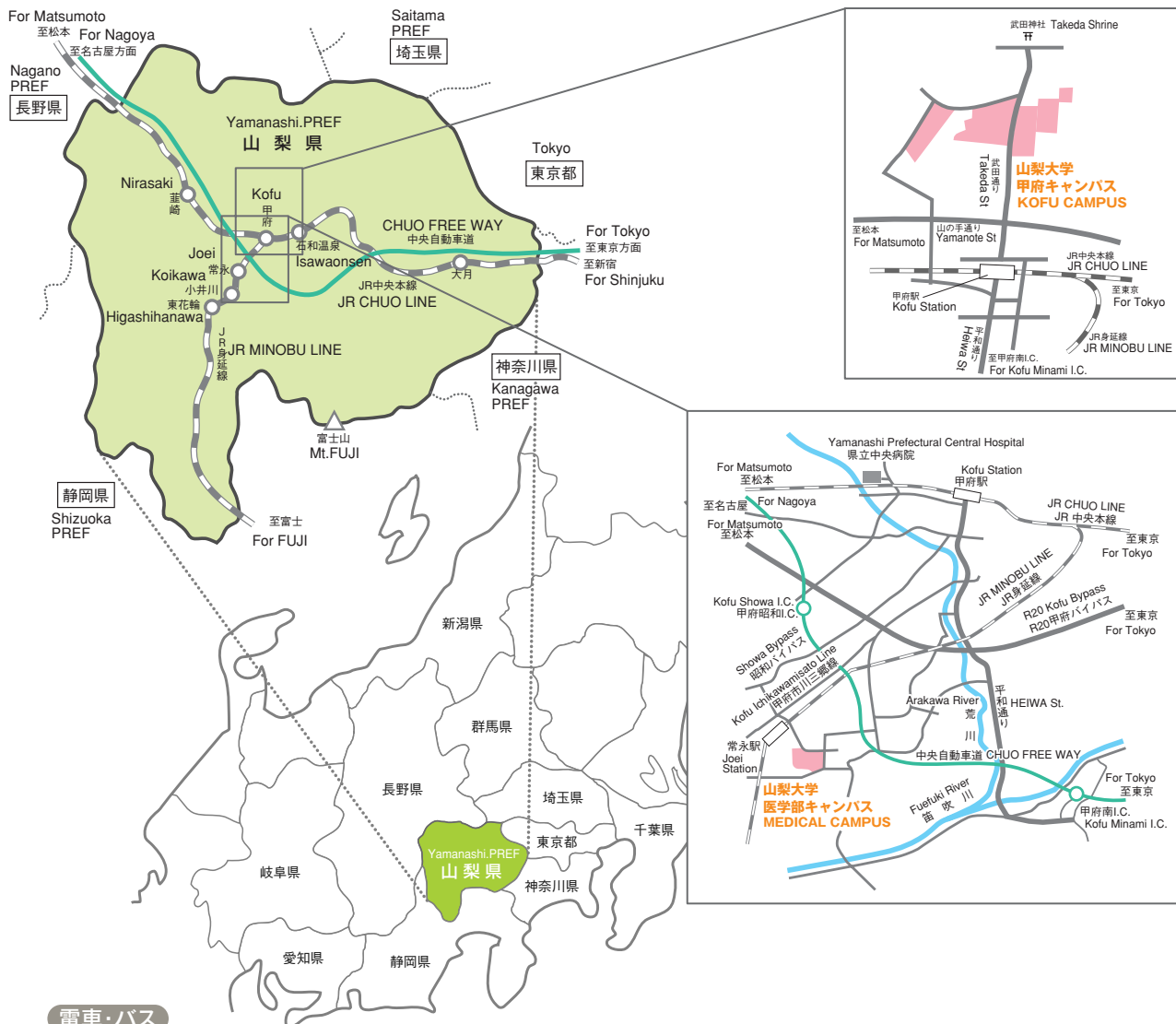
医学部キャンパス

MEDICAL CAMPUS



山梨大学へのアクセス

ACCESS



電車・バス

新宿⇒甲府駅

- JR中央線 特急「あずさ」又は「かいじ」で最短87分
- 新宿駅西口高速バスターミナルより約130分

名古屋⇒甲府駅

- ①JR中央線(塩尻駅経由)/塩尻で特急「しなの」から特急「あずさ」に乗り換え、最短181分
- ②東海道新幹線・JR身延線(静岡駅経由)/静岡で新幹線「ひかり」から特急「ふじかわ」に乗り換え、最短195分
- JR名古屋駅前バスセンターより約240分

甲府駅⇒甲府キャンパス

- 甲府駅北口3番バス乗り場より「武田神社または積翠寺」行き約5分、「山梨大学」下車
- 甲府駅北口より武田通りを北上、徒歩約15分

甲府駅⇒医学部キャンパス

- 甲府駅南口バスターミナル8番乗り場より「山梨大学附属病院」行き約30分、終点下車
- 甲府駅でJR身延線に乗り換えて「常永(じょうえい)」駅まで最短17分 + 常永駅から南東方向に徒歩約15分

車

東京⇒甲府キャンパス

中央自動車道：高井戸IC～甲府昭和IC(高井戸＝甲府昭和間約1時間20分、113.2km)で下りて、一般道を北東の方角へ。国道20号線またはアルプス通り経由で約20分

東京⇒医学部キャンパス

中央自動車道：高井戸IC～甲府昭和IC(高井戸＝甲府昭和間約1時間20分、113.2km)で下りて、一般道を南の方角へ。国道20号線、昭和バイパス経由で約15分

名古屋⇒甲府キャンパス

東名高速：名古屋IC～小牧JCT～中央自動車道：甲府昭和IC(名古屋＝甲府昭和間約3時間、245.4km)で下りて、一般道を北東の方角へ。国道20号線またはアルプス通り経由で約20分

名古屋⇒医学部キャンパス

東名高速：名古屋IC～小牧JCT～中央自動車道：甲府昭和IC(名古屋＝甲府昭和間約3時間、245.4km)で下りて、一般道を南の方角へ。国道20号線、昭和バイパス経由で約15分

(2006年7月現在)

国立大学法人山梨大学 2006

Outline of National University Corporation
"University of Yamanashi"

平成18年7月発行

編集・発行：山梨大学総務部 総務課

URL： <http://www.yamanashi.ac.jp/>



山梨大学は、平成15年4月7日に環境マネジメントシステムに係る
国際規格「ISO14001」の認証（審査登録）を得ました。